

数年前、へぼ暮仲間の三人を書こう会の見学に連れてきて入会を誘ったが、居並ぶ諸兄弟の迫力に圧倒されたのか、残念ながら尻込みしてしまった。

でもその後は我々四人だけで「へぼペン」と称して囲碁の前後に文章を発表しあっており（私は書こう会の作品を流用）、「コナ」になって囲碁はお休みになったが、へぼペンはいまでも月一回、Zoomで継続している。そんな中で最近のN君の作品が面白かったのでご紹介したい。

かの紫式部は毎朝、厠に行くのが習慣だった。それをある人が「朝糞丸」と呼んだのに対し、紫式部は反発して、

紫は濃くも浅くも染まるもの 浅く染まるとは誰が言ふらむ

と返したというのである。ことの真偽はともかくとして、うまいことを言ったものだ。この手の地口落ちや駄洒落は枚挙にいとまがないが、同音異義語に類することが多い日本語特有のものだし、また紫式部とトイレの取り合わせがなにか可笑しい。

N君は小さいころ、この歌をお母さんから教わったそうである。

母上は北海道北部の僻地の出身であったが、彼の地では厠は母屋から離れたところにあり、寒冷の地であることから夜ともなると行くだけでたいへん、おまけに汲み取り式のため暗くて糞溜まりに落ちる心配もある。だから子供たちは紫式部を見習って雲古は明るいうちに済ませておけということ、この歌を教え込まれたのだと。

一般的に言っても、昔の田舎では夜の用便を忌避していたらしい。それにひきかえ今ではウォシュレット付きの明るい洋式トイレで、昔の厠小屋に比べると隔世の感、天国と地獄の差だとN君は結んでいる。

私は昔から飲みすぎ不摂生のためか、出先でもどこでも所かまわず突然浅く染まる状態になり、パニックに陥って散々苦労してきた。

幸い最近では公園などのトイレも天国とまではいかないが、かなり清潔なものに改善されている。欲を言えば設置してある場所が少ないのが難点で、散歩のときは緊急事態に備えてコース取りに気を配っている。